



大鹿村に積もった火山灰で泥染め！

8月にオープンした「道の駅 歌舞伎の里大鹿」のトイレに暖簾（写真1）がかけられているのをご存知でしょうか？ この暖簾は、大鹿村授産所が、大池高原のあたりで火山灰が積もった地層を採取してきて、泥染めをして制作したものだそうです。

大鹿村では、急峻な地形のため、火山灰が降り積もっても、ほとんど地層として残りませんが、大池のあたりの凹地には残っていることが知られています。『飯田市美術博物館調査報告書 4 伊那谷の火山灰』によりますと、大池のあたりで地面を掘ってみたところ、2 m以上の深さまで火山灰層が続いており、その中の一部は御嶽山起源のもの（御岳伊那テフラ）、遠く九州から飛んできたもの（鬼界アカホヤテフラ、始良Tnテフラ、阿蘇4テフラ）などが挟まっていることがわかったそうです（図1）。（宮崎）

※「テフラ」というのは、溶岩を除く火山噴出物の総称。大池では、火山灰だけでなく、軽石などが含まれていることもある。

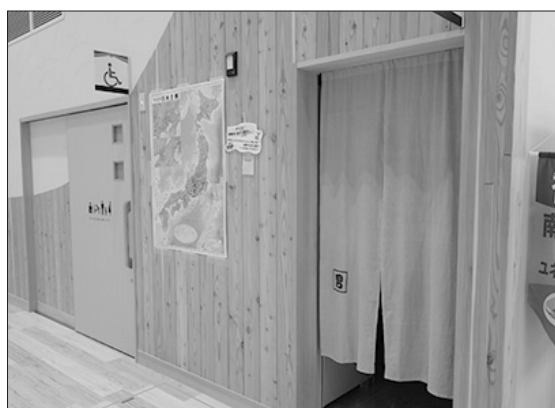


写真1 道の駅トイレの暖簾

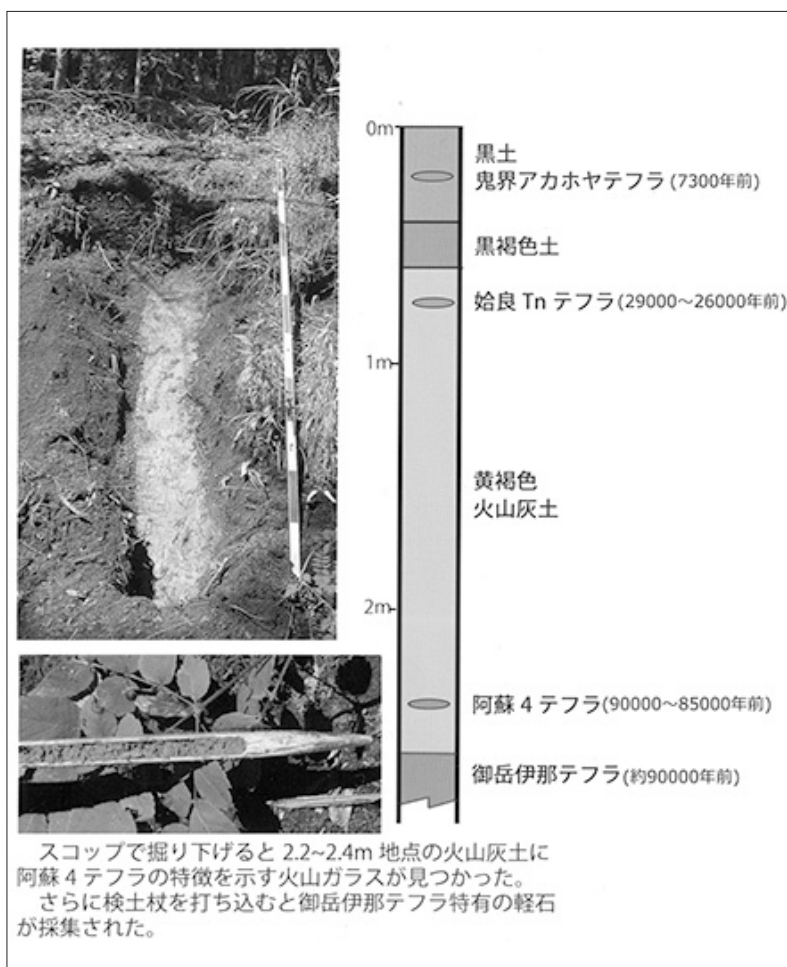


図1 大池に積もった火山灰

（『伊那谷の火山灰』寺平宏編，飯田市美術博物館発行，2013より引用）

札幌で地震&ブラックアウトに遭遇！

9月6日午前3時7分、平成30年北海道胆振東部地震が発生しました。震源の規模はマグニチュード6.7、震源に近い厚真町では震度7を記録しました。そのとき私は、札幌駅近くの宿の2段ベッドの上段で寝ていました。地震の揺れですぐ目が覚めましたが、幸い物が落ちたりすることはなく、揺れの大きさは、震度4～5弱くらいのように感じました。スマートフォンで地震情報をあれこれ調べているうちに、停電が発生しました。同じ部屋に泊まっていた方たちが、断水に備えて風呂に水を張ったり、余震にそなえてドアや窓を開けたりしてくれました。幸い断水はしておらず、トイレも使えることがわかりました。

朝になって、スマートフォンで停電に関する情報を収集すると、北海道全域で停電していること、携帯基地局のバッテリーが切れたら携帯電話の通信が途絶えるらしいこと、停電復旧まで1週間くらいかかるかもしれないことなどの情報が流れていました。道路向かいのホテルは断水してしまったようで、トイレを借りに来られる様子が見られました。宿から歩いて外に出てみると、信号が消えていました（写真2）。コンビニは停電の中、営業しているところも少なくありませんでしたが、長蛇の列ができており、食品棚は空に近い状態でした。

朝10時頃になると、頼みのスマートフォンの通信が途絶えてしまい、ただ復電を待つしかない状態でした。とはいえ太陽の光のおかげで昼間は自由に歩きまわることができたので、何とか菓子パンや飲み物を調達することができました。そして、午後になって宿に戻ると、何と、復電したとの情報があり、ブレーカーを元に戻すと電気が点灯しました。朝の時点では復電まで1週間かかるという情報が流れていたため、このときは本当に助かった！と思いました。

復電により、難を脱した感はありましたが、まだ余震も多く、油断はできない状態でした。道路向かいのホテルをはじめ、停電が続いている場所も多かったため、宿は避難所として開放されました。スマートフォンの充電やトイレ、シャワーを借りに来られる人、カップ麺や飲み物を買いに来られる方がちらほら見られました。

地震翌日以降も、食料の調達に関しては混乱が続いていました。商品が入荷し、長蛇の列ができていた店舗（写真3）がある一方で、仕入れができず、商品が空になったままの店舗（写真4）も見られました。停電前から冷蔵庫や冷凍庫に入ったままの商品は、売り物として出せない状態になってしまっていました（写真5）。現代日本において、いろいろな社会の仕組みが電気に依存して成り立っており、長時間、広域の停電では機能しなくなってしまうことを実感しました。（宮崎）



写真2 停電で信号が消えた札幌駅前



写真3 大行列のスーパー



写真4 商品が置かれていないコンビニ



写真5 冷蔵、冷凍のコーナーは販売中止